

彩の国いろどりライブラリー
前回ワーキング等で提起された課題への対応（案）

令和 5 年 1 0 月 1 7 日

第 2 回埼玉県障害者施策推進協議会ワーキング A チーム

【課題 1】当事者講師による福祉教育の取組が行われている地域における競合への対応

- ・ 県社協から市町村社協に情報発信する際、今後ライブラリーを通してしか依頼できないと誤解されることが懸念される。講師登録を躊躇する人が出る可能性もある。(第 1 回ワーキング：県社協熊井部長)
- ・ すでに地域で行われている取組との競合についても意識して事業を実施する必要があるため、しっかりと社協や学校関係者にも協力してもらう必要がある。(第 1 回ワーキング：植村委員)
- ・ 関係機関との調整の部分で、県の事業によって地域の活動に混乱が生じないようにする必要がある。(第 1 回ワーキング：佐藤委員)

(対応案)

○県ホームページの講師依頼の手続部分に留意事項の一つとして明記する。

○市町村社協、学校、市町村障害福祉担当への周知の際に文書・資料等に明記する。

【課題 2】講師の質の確保と登録方法について

- ・ 講師の質の確保が問題である。せっかくいい取組なのに中途半端な講師が登録されてしまうと逆に事業の評価が下がってしまう。誰でも講師になれる仕組みにするのは適当ではない。講師の登録をどうするかが課題である。(第 1 回ワーキング：D E T 埼玉上野代表)
- ・ 講師の質については、しっかりと研修を受けた講師が実施した方が良いとの指摘である。その際に本日参加している 3 団体のような団体の協力をいただければ幸いである。(第 1 回ワーキング：佐藤委員)
- ・ 講師情報を掲載するだけでは事業としてはもの足りない。講師情報は更新されていくものであり、新しい講師が加わって増えていかないと意味がない。そうでなければ停滞する。継続的に打ち合わせする機会が必要である。(第 1 回ワーキング：あったかウエルねっと須田事務局長)
- ・ 講師は埼玉県民に限定するのか。(第 1 回ワーキング：D E T 埼玉上野代表)

(対応案)

○運用開始当初（試行期間）について

本ライブラリーの運用開始当初は試行期間と位置付けられており（提言・重点課題より）、この段階では、障害当事者講師による福祉教育に取り組むあったかウエルねっと、D E T 埼玉の

2 団体に所属する当事者講師のうち、本ライブラリーへの登録を了承していただいた方を講師として登録する。当該団体の当事者講師は、一定の研修プログラム等を修了しており、これまで当事者講師としての経験・実績を継続的に積んできた方々である。また、【課題3】記述の趣旨に基づく講演等を行うことができる方々である。

登録にあっては、県障害者福祉推進課からの依頼文書によるものとする。

○本格運用への移行後について

本ライブラリー担当者（県障害者福祉推進課職員）が中心となり、新規当事者講師の登録について継続的に検討を行っていくこととする。検討にあっては、県社協、あったかウエルねっと及びＤＥＴ埼玉との定期的な会合の場を継続して運営する必要がある、その場において当該団体との意見交換、当事者講師として活動する人材（登録候補者）について情報交換等を行うものとする。

また、障害者施策推進協議会の構成団体の中にも障害当事者講師の経験を有する方がいるため、当該団体にも協力を得て情報収集を行い、講師の質を確保する観点から団体推薦等の方法などを検討していくこととする。

○新規登録講師については、質の確保・向上等の面で継続的な検討が必要と考える。今後継続予定である県社協、あったかウエルねっと及びＤＥＴ埼玉との定期的な会合の場、推進協ワーキングにおいて、話の質を高める方法、講師の育成方法等について継続的な議論を行う必要がある。

○県外在住の当事者講師についても登録可とする。地縁等により県外在住の当事者講師も本県内で幅広く活動しているため。

【課題3】ライブラリー登録講師の講演等の内容について

・ライブラリーに登録された当事者講師は、「どういった内容の話」をする必要があるのか。それを踏まえないと登録するしないを判断できない。（8月あったかウエルねっと会合）

（対応案）

彩の国いどりライブラリーの目的・趣旨を踏まえると、県ホームページを通じて依頼のあった派遣先に対しては、講演・授業・研修等で以下の内容を伝えて理解を導く必要がある。

○障害の社会モデルの考え方、心のバリアフリー、障害特性の理解と合理的配慮の提供など、障害のある人もないひとも分け隔てられることなく同じ地域で暮らすことができる「共生社会」の実現について。

この点は、本ライブラリーのホームページにも取組の趣旨・目的として明示する。

○障害当事者講師の話をオーディエンスがネガティブ体験として捉える（自分には障害がなく
て良かった等）を避けるため、上記目的を踏まえた「考える」プロセスを重視した話とし、
オーディエンスの共生社会づくりに対する「共感」に基づく理解、「自分ごと」として捉えた
理解に至ることができる内容とする。

○上記の条件の下、各講師が持つ研修プログラム・体験談等を活かしたそれぞれのスタイルで
講演等を実施する。

【課題４】情報発信（広報）の方法

- ・ 情報発信（広報）をどのようにしていくか。消極的な人や市町村はつくってもホームページ
を見に来ないことも考えられる。（第１回ワーキング 石橋委員）
- ・ 県社協の福祉教育推進プラットフォームで広報に協力できるか。また県でも広報誌等での広
報を検討して欲しい。（第１回ワーキング 佐藤委員）
- ・ 地域格差があることが最も大きな課題である。この事業を通じて講師の情報が教育委員会や
社協でも活用できれば、私の活動にも生かせると期待する。ただ、ホームページが公開され
ても、これまで福祉教育に興味のない市町村が認識を持ってくれるかどうか不安がある。県
や県社協で舵取りをしていただければ、促進されるのではないかと期待している部分もある。
（第１回ワーキング あったかウェルねっと木野氏）

（対応案）

○推進協資料「福祉教育における彩の国いろどりライブラリーの展開《検討案》」掲載のルート
で周知を行うことに加え、報道発表、彩の国だより等による広報についても検討する。

○県社協にあっては、「福祉教育推進者研修（オンデマンド動画配信）」の場を活用し、当該研修
に参加する学校の先生方に対して情報発信することを検討する。

また、「福祉教育推進員連絡会」も活用し、学校への効果的ＰＲの方法について意見交換等を行
うことも併せて検討する。

【課題５】障害当事者講師のリスト及びプロフィールシート等について

- ・ 障害当事者講師プロフィールシート等の内容について検討をお願いしたい。（事務局）
- ・ 障害当事者講師プロフィールシートについて、市町村や障害種別等による検索ができると思
いやすさが向上する。（第１回ワーキング：石橋委員）

○あったかウェルねっと、ＤＥＴ埼玉から、軽微な修正依頼が数か所あったため対応する。

○講師自身にとって記入が難しい箇所もあると思われる。担当者のサポートが必要。

（あったかウェルねっと 須田事務局長）

○プロフィールシート等を作成する際、記入例があると作業がしやすい。

(D E T 埼玉上野代表)

○県ホームページの仕様では、検索フォームの設置は不可能。

○対応として、プロフィールシートを一つの Excel ブックにまとめ、シート一枚目に検索用の講師リストを作りフィルター検索ができるようにする。リストから各講師のプロフィールシートにリンクを貼ることを検討する。

【課題 6】今後の作業の進め方（スケジュール）について

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・今後の作業の進め方（スケジュール）について、資料 1－2 に基づき、県社協、あったかウエルねっと及び D E T 埼玉と確認調整を行った。 |
|--|

○資料 1－2 の内容につき、県社協、あったかウエルねっと及び D E T 埼玉の了承を得た。